

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名		仙台市田子西たんぼホーム		公表日		令和8年3月19日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		1クラスのごともと大人の人数への配慮や室内の環境への配慮（床には物を置かない等）		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		登園人数に合わせて3～4名配置している。活動内容やこどものタイプにより職員の配置を多くしている。職員は様々な資格を持ち構成されている。日々の利用人数やこどもの状態を考えて適切な職員数で療育にあたっている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		各クラス毎、対象児に合わせた環境づくりをしている。朝の支度やスケジュール等、視覚的に分かりやすい工夫をしている。写真提示などでわかりやすく伝える工夫をしている。下駄箱、イスにシールを貼りわかりやすくしている。子の体に合わせイスには背もたれや足台を追加している。こどもの状態に合わせて分かりやすく過ごしやすい環境を整えてきた。未歩行やお座りが不安定なこどもたちが安全に集中して取り組めるようマットを使用して移動スペースを分けた。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		日々使用したおもちゃや机、カゴ等はアルコール消毒している。毎日の清掃と消毒を徹底している。活動前（朝）も施設内外をチェックして活動する子供達の安全や清潔さに心配りしている。部屋内用や職員の持ち運び用の消毒タオルを毎回準備しこどもが口に運んだ玩具など都度消毒した。毎月、安全点検を実施し壊れている箇所は修繕している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		必要に応じてパーティションで区切り安心して集中できる空間がとられている。活動内容に応じてあらかじめ別部屋に準備し使用してきた。適時、個別面談を使用する際の部屋の確保ができていた。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		日々の振り返りをクラス職員全員で行いお子さんの目標を確認しながら反省や次回の取り組みにつなげていた。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		アンケートを実施し回答とともに掲示、改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		個別での面談があった。困り事、悩み事を職員や上司に相談しやすい雰囲気と相談の機会を設けてすみやかに問題解決につながった。いつも意見等を言いやすい環境を作っている。他職員の意見等もよく聞いており、そのための改善もできている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		外部講師によるものや内部での研修も多く行われている。学びも多く職員の質の向上になっている。様々な研修の機会がある。リハ職三法人の連絡会に参加しやすい雰囲気（協力や理解など）や興味関心のある研修を受講する機会があった。定期的に研修の機会を設け知識を得たり感想を書くことで考えを深めることができた。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		支援プログラムを作成し、保護者の方に見える場所へ常時、掲示している。		

適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○	アセスメント表を基にクラス職員全員でアセスメント会議、保護者記入のモニタリングの共有後、児発管と個々の子どもの支援計画書を作成した。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	しっかりとクラス会議を行い共通理解を図っている。アセスメント会議、支援会議でクラスの職員や他クラスの職員（色々な職種）のアドバイスを受け共通理解の下、検討を繰り返し行った。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	日々のクラス反省の時間に個々の支援計画についても話し合っている。子どもの支援目標を確認し計画に沿った支援に努めた。個々の支援計画目標に基づいた活動を計画、実施しクラス職員間で成長を確認し合えた。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	たんぼほ共通のアセスメントシートを使用しケース記録では日々のインフォーマルなアセスメント（生活動作等）を使用し共有してきた。評価には共通のアセスメント表を用い、日々の行動観察は記録に記載している。	子どもをアセスメントする力を全職員で共通理解のもと、知識と実践を高めるための学びの場を設けていく必要がある。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	児や家庭の様子などに合わせて細かく保護者にもわかりやすく書いている。作成の際から支援内容を具体的に考え、日々振り返りを行いながら内容にあった支援を行ってきた。集団活動だけでなく個別活動にも支援計画の内容を反映した。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	クラス会議を定期的に行い実施し担任皆で立案を行ってきた。月に数回、具体的な活動内容や目標を考える時間を設け、クラス職員共通理解を図っている。クラス会議でねらいの関わりポイント、流れの確認を綿密に話し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	設定あそびでは様々な内容を取り入れている。季節にそった活動もクラスの子供のタイプにより取り組めるアプローチを工夫しながら行っている。毎日違った設定活動をしている。子供たちの育ちの変化を確認し合いながら活動内容を工夫し続けた。今必要としている事や子どもの成長を考えながら日々設定活動を工夫している。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別活動（のびのび）の実施。子どもに応じて個別活動の強みと小集団活動の強みを検討し支援計画に基づいて支援してきた。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	前もって活動の進め方、配置の仕方など確認してから取り組んでいる。朝の打ち合わせでその日の子供の状態や出席人数により職員の動きや活動（設定あそび）の出し入れ、きょうだいの対応など細かく打ち合わせし確認している。前日と当日の朝に確認を行い、チーム連携を大切にしてきた。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	全体反省では、各クラスが保育の特記について発言し共有している。クラスごとに振り返りを行っている。活動中の子の様子や保護者から声がけされた内容などクラス職員で共有している。反省の時間を毎日設け職員間で共有している。日誌に振り返りや改善点を記入し共有している。		
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	保育日誌への記録時に次回改善すべき所にマーカーを引く等し、忘れにくくしている。支援の検証、改善につなげた。（例：片付けのタイミング、見本の見やすい位置、椅子や机の配置）ケース記録を記入し検証・改善につなげていく。		

	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		日々の活動の中で支援目標を確認することで定期的な見直しが共通理解のもとすすめられた。中間評価として3か月おきに保護者と面談、クラス内、保護者と支援内容や達成度について共有している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		事業所とのコア会議にはクラス担任だけでなく児童発達支援管理責任者や主任も同席し共通理解のもと支援できるよう努めている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		こども病院への同行、当センターで作成したリハビリノートを活用して発達の共有を行ってきた。区役所保健師、病院リハと情報共有を行いながら本人支援、家族支援が行えるように必要に応じて連絡を取り合っている。保育・教育機関とは卒後のフォローも実施。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		勉強会や移行支援シートも利用している。次集団で適切なサポートが受けられるよう移行支援シートを作成してきた。見学の機会を設け顔を合わせての情報共有や相互理解に努めている。卒後訪問の実施。地域向け研修会の開催やセンター見学会の実施などインクルージョン推進をはかっている。保育所等へ訪問し現場で困っている点からインクルージョンの考えを用いて一緒に考える作業を行ってきた。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学への移行児はいないが就園等次集団先に移行支援シートや卒園児訪問で児の様子を共有している。就学に向けてもシートを活用できるように保護者と共有している。小学校の校長先生の講話の機会を作り児に合った就学環境を考えるきっかけを作ってきた。	就学前まで在籍している家庭はいないが、次集団へ進む際は、切れ目のない支援を継続できるように引き継ぎを丁寧に行っていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		他のセンターとの勉強会や連絡会に参加し、実技等も含めて質の向上に励み日々の療育で実践してきた。他センターと常に情報交換を行い支援ケースの共有や支援のあり方について検討をしてきた。	事業所利用のお子さんが少ないが近隣の事業所との連携強化を図っていく
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		専門家からのスーパーバイズ（ケース検討会）の機会や外部研修に参加してきた。長年発達相談支援を行ってきた外部講師の方にSVをもらい支援の向上を目指して取り組んできた。	どの職員も内部にととまらず外部からの助言を受けられる体制を整備していく。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		地域相談員中心に地域子育て機関との会議（ネットワーク会議）に参加し情報共有やイベントの計画実施に携わった。	今後、自立支援協議会へ積極的に参加していく
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		設定活動の中で高砂児童館へ遊びにいたり地域のイベントに参加する等した。児童館や保育所へ行き一緒に遊ぶ機会を設けている。地域のお祭り（行事）に参加したり活動する機会を設けた。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者へ発達の状況や課題についてタイムリーにこどもの姿を共有しながら話し合ったり個別の面談や丁寧に話し合う機会を設けてきた。日々の活動の中でこどもの姿、行動の背景について適時話し合ってきた。クラス内でプロフィールシートを活用し保護者にこどもの姿を整理してもらった。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントトレーニングの勉強会を通してこどもへの対応の仕方や声かけの仕方について学びを深める機会を設けてきた。		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		園長から入園前に書面をもとに説明会の中で、丁寧に説明をしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		こどもと保護者の意向を聞き取り、それに沿った支援目標の作成を心掛け、作成後は保護者より同意を得てきた。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談の時間を設け丁寧に説明している。同意をいただいた上でサインをもらっている。定期的に面談を設け、支援内容の確認、同意を得ながら支援してきた。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		適時、保護者の方へ声をかけ必要な場合には別室を利用して話をする機会を作った。定期的に面談を設けて困り事を聞き取ったり普段の活動時にも必要時は別室で相談に応じてきた。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		日々のコーヒータイトムで保護者同士の交流の機会やグループワーク、家族参観での父親懇談会を通して交流の機会を設けてきた。きょうだい参加する企画を立て実施している。兄弟同士の交流の場として年2回HOっとキッズを行っている。HOっとキッズではきょうだい児が楽しく参加できる場を設けてきた。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		タイムリーに応じ対応している。相談の申し入れがあった時は速やかに傾聴し対応方法など一緒に考え他職員とも内容の共有してきた。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月のクラス便りや園便りの発行、日々のミーティングやミーティングファイルを活用して、発信し共有してきた。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		名前をひらがな表記にしたりカギ付場所で書類を保管する等して留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		小さな変化（育ち）を保護者とこまめに共有しその後の育ち（見通し）についても共有してきた。情報伝達のためにお子さんへの支援（写真、絵カード、実物提示）をしている。活動の中でこどもが選択できる機会を整えてきた。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域との連携、情報共有。児童館便り、小学校PTA便り等の共有。町内会の行事の時には駐車場の貸し出しをする等、地域との関わりをもってきた。		
非常時等	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		月1回の訓練では、利用者の避難経路等よく確認し緊迫した雰囲気の中で行われている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月1回、様々な災害等を想定した訓練を実施してきた。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に健康管理カードを提出してもらい職員間で共有している。入園後（単独時）に服薬が必要な時は指示書のもと適切に行っている。日々、こどもの体調の変化や服薬の変更有無を確認している。単独通園に向けて保護者と服薬の内容や管理の仕方について情報を共有した。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		職員全体でアレルギーを持つお子さんの情報は徹底して共有している。活動中は、お子さんの様子をよく観察し指示書に基づいて対応している。	
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		年度初めと年間を通して適時、研修の中で確認してきた。		

の 対 応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全点検を定期的に実施し安全確保に努めている。安全面を配慮し駐車場内での手つなぎ歩き、抱っこでの移動や各扉の施錠、自宅の安全面の工夫、配慮を保護者と話し合ってきた。必要に応じて複数回の訪問の実施（保健師同行）。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		特記がある際はノートに記載し共有している。全職員とて共有し課題解決、再発防止に努めてきた。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎月、会議を実施。研修を通して対応方法を職員で意識してきた。座位保持椅子が身体拘束とならないよう保護者へ説明、椅子に座る時間がこどもにとって負担にならないように配慮した。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		必要時、クラスや全体で会議を通して共有している。状況に応じて記載をするようにしている。座位保持椅子やテーブルを使用する場面や時間をこどもの現状に応じ、事前に説明、確認している。	